

# 徳臣氏(熊大)に「森村賞」

## 水俣病研究認められる



徳臣熊大助教授

日本ある。

精神神経学会は、徳臣熊大助教授が「水俣病の臨床と病態生理」と題して行なった特別講演につき、十一月に同学会誌に発表した同じテーマの研究論文で、これが認められたもの。

あり、その原因物質としては有機水銀が考えられる」とした。徳臣助教授は、熊大の前身である熊本医大を昭和十六年に卒

十日から三日間、岡山大学でひらかれたが、この学会で三十五年度の「森村賞」が熊大医学部付属病院第一内科の徳臣晴比古助教授(四七)に贈られることになった。

「森村賞」は戦前からあったもので、篤志家の寄付金を基金に、毎年精神神経医学に貢献した人に贈られている。選考は一年間の研究発表や論文を同学会評議員会で検討し、全国から一人だけ投票で受賞者をきめ、賞金が贈られる。熊大での受賞はこんどが初めてで

徳臣助教授は、三十一年いらい熊大水俣病特別研究班の一人として臨床部門を担当、世界の奇病といわれる水俣病と取り組んだ。この間八十三人の患者(うち死亡三十三人)を観察、動物実験を重ねて三十四例について症状をくわしく検討、水俣病は脳のどの部分が障害を受けるかを調べ、結論として「水俣湾でとれる魚貝類を食べるために起こる中枢神経系の中毒で

業、神経病の専攻で、二十二年九月から同付属病院第一内科の助教授となった。ことし九月にはローマでひらかれる国際神経学会に同大学生化学教室内田慎男教授、第二病理解教室武内忠男教授とともに出席、水俣病についての研究発表をやることになっている。